

第69期

中間報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで

名糖産業株式会社

目 次

株主の皆様へ	1
連結業績の推移	6
第2四半期(中間)連結財務諸表	
四半期連結貸借対照表	7
四半期連結損益計算書	8
四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
個別業績の推移	9
第2四半期(中間)個別財務諸表(要約)	10
会社の概要	11
株式の状況	11
役員	11
株主メモ	12

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

さて、当社第69期中間期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申しあげます。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、各国の景気刺激策の効果が薄れて世界経済に不透明感が強まるなか、景気回復の勢いが鈍化してきました。これまで新興国の経済成長に支えられ、持ち直しの動きをみせてきた国内景気は、急激な円高や株価の低迷、加えて厳しい雇用情勢や長引くデフレなどが下押し圧力となり、下振れリスクが懸念されるようになりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましても、安全・安心で高品質な商品の提供への取り組みが強く求められる一方で、消費者の買い控えや店頭価格の下落など、厳しい経営環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、お客様に喜ばれ満足いただける付加価値の高い商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を進めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は前年同期に比べ1.9%減（下記のチョコレート商

品の取引価格変更分を考慮すると1.1%減)の9,670百万円となりました。(食品事業において、9月よりファミリータイプのチョコレート商品の取引価格を変更しております。そのため売上高および販管費のうち販売促進費が前期の基準で計算した場合よりも減少しております。)営業利益につきましては、事業活動の効率化を図りましたが、売上高の減少および新工場の稼動に伴う減価償却費の増加などにより前年同期に比べ37.0%減の189百万円となりました。また、経常利益は前年同期に比べ3.2%減の558百万円となり、四半期(中間)純利益につきましては、特別利益の投資有価証券売却益107百万円および特別損失の投資有価証券評価損201百万円と資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額21百万円を計上した結果、前年同期に比べ40.1%減の276百万円となりました。

事業分野別の動向は、次のとおりであります。

食品事業

当中間連結会計期間におきましては、主力の菓子部門は積極的な販売活動を展開し拡売に努めましたものの、個人消費が低迷するなか夏場の猛暑も大きく影響し、減収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」「ベストアソートチョコレー

ト」などのファミリータイプの商品のほか、「ぷくぷくたい」をはじめとしたエアインチョコレートも売上を減少させ、減収となりました。キャンディ類は、小袋商品など自社商品の売上は落ち込みましたが、受託商品が増加し増収となりました。

粉末飲料部門は、ラインアップされた基幹商品や新商品の香り高い「ダージリンティー」の拡売に取り組みました結果、主力の「レモンティー」や「アップルティー」などの売上が増加して、増収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、猛暑で消費が高まるなか新商品や受託商品の売上も拡大し、増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースベーカーは、商品開発や販売促進活動を積極的に展開した結果、主力のバウムクーヘン類やゼリー類の売上が好調に推移して、増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ2.3%減（チョコレート商品の取引価格変更分を考慮すると1.3%減）の8,370百万円となりました。営業利益につきましては、一部の原料で依然高止まり状態にあるものの概ね原材料価格は落ち着きをみせましたが、売上高の減少により前年同期に比べ1.3%減の441百万円となりました。

なお、愛知県小牧市に建設した株式会社エースベーカリーの新工場は、本年8月に本格稼動いたしました。

化成品事業

酵素部門につきましては、脂肪分解酵素「リパーゼ」の売上はシェア拡大に向けてのグローバルな営業活動が功を奏し増加しましたが、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は売上を減らし、減収となりました。ともに海外を主な市場としており、急激に進んだ円高の影響を大きく受けました。

薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料の「デキストラン」の売上は減少しましたが、前連結会計年度に売上が無かったMRI（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬である「フェルカルボトラン」（今期より従来の「デキストラン・マグネタイト」の呼称を変更しております。）の売上が回復し、増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期とほぼ同水準の1,092百万円となりましたが、八王子市と小牧市に建設した新工場の稼動に伴う減価償却費の増加や円高の影響などにより、17百万円の営業損失となりました。前年同期は72百万円の営業利益でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、安定的に推移し、売上高は前年同期に比べ2.4%増の206百万円となり、営業利益は前年同期に比べ3.5%増の103百万円となりました。

このような状況下で、当社グループといたしましては企業価値のさらなる増大を目指し、お客様視点の商品開発、既存中核ブランドを軸とした商品戦略の強化ならびに積極的な営業活動に取り組むとともに、引き続きコストの削減および品質管理の向上に邁進する所存であります。

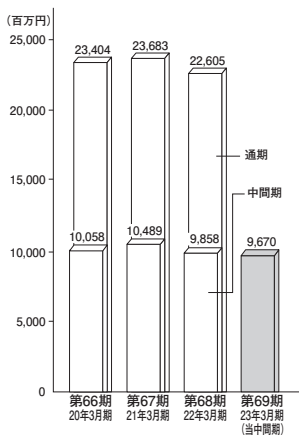
株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

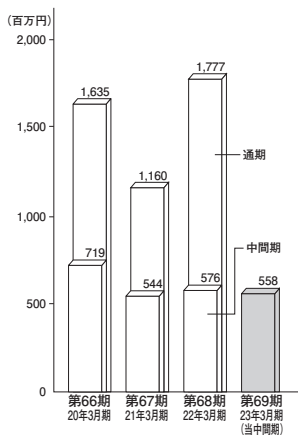
代表取締役社長 水谷彰宏

連結業績の推移

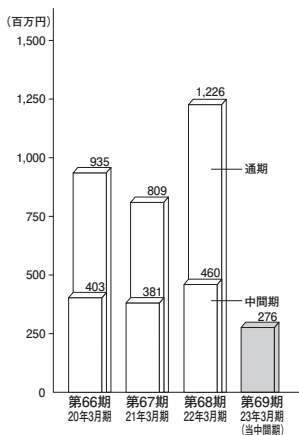
連結売上高



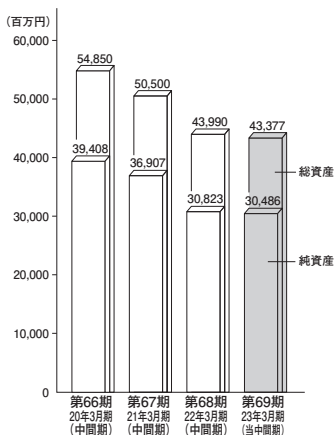
連結経常利益



連結純利益



連結総資産／連結純資産



(注) 連結子会社3社

株式会社エスパーカー、名糖乳業株式会社、プリンスゴルフ株式会社
持分法適用会社1社
名糖アダムス株式会社

第2四半期(中間)連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (平成22年9月30日現在) (単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	7,932	流 動 負 債	5,469
現金及び預金	1,080	支払手形及び買掛金	2,217
受取手形及び売掛金	3,439	短期借入金	1,500
有 価 証 券	597	未払法人税等	144
商品及び製品	1,150	返品調整引当金	4
仕 掛 品	348	そ の 他	1,602
原材料及び貯蔵品	971	固 定 負 債	7,422
そ の 他	356	長期借入金	3,420
貸倒引当金	△11	繰延税金負債	1,781
		退職給付引当金	2,080
		役員退職慰労引当金	14
		そ の 他	125
固 定 資 産	35,445	負 債 合 計	12,891
有形固定資産	13,801	(純資産の部)	
無形固定資産	94	株 主 資 本	26,332
投資その他の資産	21,549	資 本 金	1,313
投資有価証券	20,814	資 本 剰 余 金	76
そ の 他	802	利 益 剰 余 金	33,477
貸倒引当金	△68	自 己 株 式	△8,534
		評価・換算差額等	4,088
		その他有価証券評価差額金	4,088
		新株予約権	65
資 産 合 計	43,377	純 資 産 合 計	30,486
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	43,377

四半期連結損益計算書 (平成22年4月1日から平成22年9月30日まで) (単位：百万円)

科 目	金 額
売 上 高	9,670
売 上 原 価	6,398
売 上 総 利 益	3,271
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	3,081
営 業 利 益	189
営 業 外 収 益	432
営 業 外 費 用	64
経 常 利 益	558
特 別 利 益	107
特 別 損 失	223
税金等調整前四半期純利益	443
法 人 税 等	166
少数株主損益調整前四半期純利益	276
四 半 期 純 利 益	276

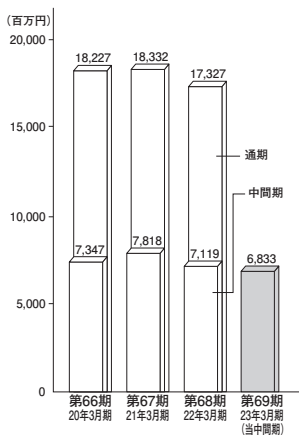
(注) 1株当たり四半期純利益 16円42銭

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (平成22年4月1日から平成22年9月30日まで) (単位：百万円)

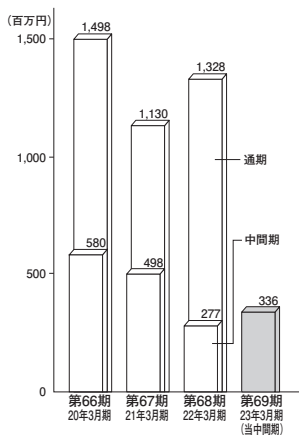
科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	721
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	484
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△610
現金及び現金同等物の期首残高	1,657
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,047

個別業績の推移

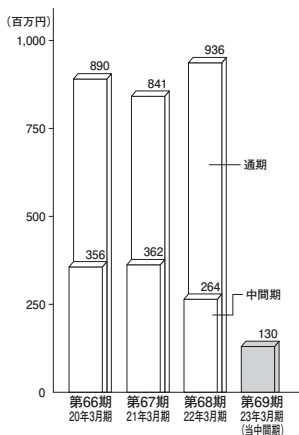
売上高



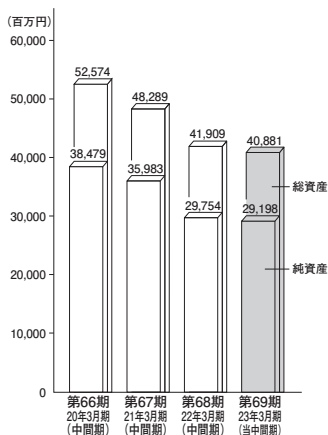
経常利益



純利益



総資産／純資産



第2四半期(中間)個別財務諸表(要約)

四半期貸借対照表

(平成22年9月30日現在) (単位:百万円)

科 目	金 額
(資産の部)	
流動資産	6,843
固定資産	34,037
有形固定資産	12,495
無形固定資産	72
投資その他の資産	21,469
資産合計	40,881
(負債の部)	
流動負債	4,366
固定負債	7,316
負債合計	11,682
(純資産の部)	
株主資本	25,013
資本金	1,313
資本剰余金	76
利益剰余金	32,158
自己株式	△8,534
評価・換算差額等	4,118
新株予約権	65
純資産合計	29,198
負債・純資産合計	40,881

四半期損益計算書

(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで) (単位:百万円)

科 目	金 額
売上高	6,833
売上原価	4,362
売上総利益	2,470
販売費及び一般管理費	2,467
営業利益	3
営業外収益	395
営業外費用	62
経常利益	336
特別利益	107
特別損失	223
税引前四半期純利益	220
法人税等	90
四半期純利益	130

(注)1株当たり四半期純利益 7円76銭

会社の概要 (平成22年9月30日現在)

社名	名糖産業株式会社
本社所在地	名古屋市西区笹塚町二丁目41番地
設立	昭和20年2月
資本金	13億1,325万円
事業内容	食品・化成品の製造販売および不動産賃貸
従業員数	368名
主な事業所	支店 東京・名古屋・大阪・福岡 工場 名古屋・枇杷島・小牧・八王子・福岡
子会社	株式会社エースパーカー(愛知県小牧市) 名糖乳業株式会社(福岡県飯塚市) プリンスゴルフ株式会社(福岡県宮若市)

株式の状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	21,265,000株
株主数	7,428名

役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	水谷彰宏
専務取締役	水野修
常務取締役	酒井功
取締役	小島寛志
取締役	市川秀夫
取締役	加藤重昭
取締役	齋田峰夫
常勤監査役	吉野俊彦
監査役	太田賢一
監査役	寺澤弘

- (注) 1. 取締役齋田峰夫氏は、社外取締役であります。
2. 監査役太田賢一氏および寺澤弘氏は、社外監査役であります。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

中間配当制度 行っておりません。

公告の方法 電子公告により行います。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告のホームページアドレス <http://www.meito-sangyo.co.jp>

上場証券取引所 名古屋・東京

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

(お知らせ)

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

2. 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■株主様ご優待

毎年9月末(中間期末)現在100株以上ご所有の株主様へ当社または当社グループ商品の詰め合わせを年1回12月上旬に贈呈させていただきます。

- 100株以上 1,000株未満 … 小売価格 1,500円相当商品
- 1,000株以上 5,000株未満 … 小売価格 3,000円相当商品
- 5,000株以上 ……………… 小売価格 5,000円相当商品

meitoは 暮らしの定番品です。

クリスピーボールチョコレート



サクサク新食感のボールチョコレート
ココア、ココナッツ、ストロベリーの
3つの味をお楽しみください。

ダーズリンティー



甘さスッカリ
ストレートティー
豊かな香りと爽やかな
渋味を持つ
ダーズリンの風味
をご堪能ください。

meito